

平成24年度愛知県総合教育センターにおける研修・講座の参観について

今年度の研修講座の参観の概要

平成24年6月13日(水)愛知県立大学生(3人)

1 参観対象研修

平成24年度第3回小学校初任者研修(B班)

講義「外国語活動の意義と実際」(11:20~12:20)

実技実習「教材研究の方法と実際」(13:20~16:20)

2 参観者 3人

愛知県立大学外国語学部英米学科の研究演習(英語教育学)ゼミの授業の一環

3年生2人、4年生1人

引率者 池田 周(外国語学部・准教授)

平成24年7月24日(火)愛知県立大学生(8人)

1 参観対象研修

平成24年度保育技術講座

講義「幼児の発達する姿とその捉え方」(9:40~12:00)

2 参観者 8人

愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科の授業の一環

3年生4人、4年生4人

引率者 山本理絵(教育福祉学部・教授)

平成24年10月24日(水)名古屋大学生・大学院生(4人)

1 参観対象研修

平成24年度中学校初任者研修(第8回)

協議「授業の分析と診断、教材研究の方法と実際 ~言語活動の充実に向けて~」

(13:40~16:30) 国語、社会、理科を参観

2 参観者 4人

名古屋大学教育学部及び大学院教育発達科学研究科の授業の一環

学部生 3年生1人、4年生1人、

院生 博士前期1年1人、博士後期3年1人

引率者 柴田好章(教育発達科学研究科・准教授)

平成24年11月14日(水)愛知教育大学大学院生(21人)

1 参観対象研修

平成24年度小学校初任者研修

講義「帰国・外国人児童生徒教育への対応」「キャリア教育の意義」(9:40~12:00)

2 参観者 21人 (申し込み23人、当日2人欠席)

愛知教育大学教職大学院の授業の一環

1年生13人、2年生8人

大学院2年生9名は、3年コースの2年目の院生

引率者 萩原 孝(教育実践研究科・准教授)

アンケートより（抜粋）

平成24年6月13日（水）愛知県立大学生（3人）

< 参観した講義・協議会について >

講義 「外国語活動の意義と実際」

内容に実践的な活動が豊富に含まれていて、教材の活用の仕方が理解できた。教材の使い方によって活動が充実したものになるかが決まる。効果的に使えるように工夫を凝らすことが大事だと思った。

小学校活動の実際の活動を教えていただき、「Hi! Friends!」のリスニングや活動が実感できた。講義というイメージからは離れた、実践的なもので、楽しみながら納得できる話だった。小学校では「英語を教えない」「英語を使って楽しい時間をつくる」ということが大切だと思った。

実技実習「教材研究の方法と実際」

一番印象に残ったのは、練習のグループに入れてもらった寸劇練習で、初任教師の方々は、とてもフランクで、また場の雰囲気盛り上げるのがとても上手で、憧れた。

「Hi! Friends!」の使い方をスクリーンやノートパソコンで実際に使って学び、小学校のデジタル化がとても進んでいると感じた。昔と違って、英語学習を楽しめる状況はできていると感じた。ペアやグループでの活動で、私たちはもちろん、子どもたちにとっても楽しめる、好まれる授業だと思った。電子黒板やノートパソコンに触れて、教育手段の変化を感じた。子どもたちに分かりやすい授業を提供できるように教師もさまざまな方法に対応していかなければならないと思う。「教師はあまり話さず、子どもたちに実際に活動させる」ということは心に刻んでおきたい。

< 今後、教職を目指すに当たって、参観の意義 >

現場でこれから活躍する先生方にお会いできて、一緒に活動もさせていただいて、非常に強い刺激を受けた。気丈に見える先生方でも、実は悩みを抱えていて苦しんでいるというお話を聞いて驚いた。それでも精一杯元気に明るくがんばっている先生方の努力はすばらしいと思う。先生になったら辛いこともたくさんあるだろうが、それを抱えながらも仲間とともに支え合っていくことが大切だと分かった。

今日の研修を受けさせていただいて、改めて教師になりたいと感じた。その教職を目指すに当たって、自分自身ももっと積極的になりたいと感じた。また堅いだけでなく、冗談も言えるような教師の性格、技量、器の大きさにとても魅力を感じた。本日の参観は、学校現場の空気が漂い、大学生を送っている私にとっては、別の世界で本当によい経験をさせていただいた。英語を教えるということに加え、英語を使って楽しむということに意義を感じ、教科書「Hi! Friends!」の内容も理解することができた。

今日の研修の雰囲気はとてもよかったと感じた。積極的に参加される先生方ばかりだったので、お互いに励みになるのではないかと思う。グループで協調性をもって話し合うこと、学び合うこと、また同じ立場の先生が集まり、共感し合えることなど、この研修の目的や成果を感じ取ることができ、貴重な経験となった。

平成24年7月24日（火）愛知県立大学生（8人）

< 参観した講義・協議会について >

子どもの発達の捉え方の多様性を学むことができた。エリクソンの発達段階の話は大学の授業でも聞いたことがあったが、保育の現場経験がある講師から、事例や具体的な言葉かけの紹介も絡めながら話をさせていただき、とても新鮮だった。また、「子どもの育ちの危うさ」に関するグループディスカッションでは、現場の保育士、幼稚園教諭の先生方が考える危うさについての話し合いを聞くことができ、

とても勉強になった。

授業で学んだことを具体的に説明していただいたので、実際の子どもたちと関連付けて、発達段階について学ぶことができた。普段学んでいる知識の重要性についても考えさせられた。

ハヴィーガーストやエリクソンの発達段階については、大学の講義等で何度も学んできたが、改めて講義を聞く中で、その捉え方について今一度考えさせられ、バランスの重要性に気付かされた。

今、学んでいる理論について具体的に講義していただいたので、理解が深まった。各段階による捉え方や関わりについても学べたのでよかった。

大学の講義では聞くことのできない、実践的な話を聞くことができた。また、近年の子どもの発達の気になるところが、実際に毎日目の前にする子どもの様子を聞くことで知ることができてよかった。

現在、大学で学んでいる講義内容について保育者が振り返るといったことだったので、今しっかり学ばなければならないのだと、再確認した。

エリクソンの発達課題については、大学の講義でも学習した、今回の講義を参観させていただいて、より深く理解することができた。

現場の先生方の話し合いを参観させていただき、今の子どもの問題を生々の声で知ることができ、とても貴重な経験になった。

エリクソンの発達課題は講義の中でもやったが、具体的で分かりやすく初めてきちんと理解できた。

「子どもの育ちの危うさ」について実際に現場で子どもと接している保育士（教諭）の方々の話を聞くことができて、とてもよい経験になった。私も就職したら、センターの研修に来たいと思った。

大学での講義で学んだことを、もう一步踏み込んで考えることができた。また、「今の子どもたちはなぜ失敗を恐れるのだろうか」とこれまでその問題だけに焦点を当てて考えていたものが、今日の講義を聞いて、乳幼児期の発達課題がきちんと達成されていなかったのかもしれないという新たな視点をもつことができた。

< 今後、教職を目指すに当たって、参観の意義 >

自分の未熟さを感じた。子どもの発達段階は頭に入っていないとはいけないのに、それすらも曖昧で確認しなくてはと思った。

現代の子どもの問題点を知ったことで、それを踏まえてこれからの実習や、もし就いたら保育士、幼稚園教諭になったときの参考にしたいと思った。現場の声を聞くことができ、本当によかった。

先生方のグループ討論で、授業で知ることのできない現場の声を聞いたことがとても参考になった。

「子どもの育ちの危うさ」については、長く働いている先生方でなくては気付けないことも多く、子どもの育ちの危うさは親の育ちの危うさにもつながっていると感じた。周りの環境、人との関わりが本当に大切だと感じたので、私が教師の立場になったり、親の立場になったりしたときに、この協議を参考にしたいと思った。

教育実習等の短い期間では知り得ない、長く保育を行っている方だからこそ分かる子ども像というものを知ることができた。

実際に現場に入る前に子ども像のイメージをもてることは、自分自身の保育観を築き上げていく上でとても有用なものになると思った。

現職の人の話を聞けるという点で、今後の職に対する考え方や心構えができる点で大変有意義だと感じた。

実際の保育者の話の中で、保育の様子、子ども、保護者の様子を知り、イメージをすることができた。実習時のことも思い出し、もう一度考え直すことができた。職に就いたときに、生かしていきたい。教職を目指すに当たって、大学の講義は現場へ行った時のための基本知識であるということを感じた。その基本的知識に基づいて、子どもたちと実際に関わることが重要で、その上で目の前の子どもに対応していかなければならない。今秋に、幼稚園で実習があるので、今日聞いた話を頭に入れて行きたい。

発達課題を学ぶこと、また現代の子どもの育ちの危うさを知ることができ、今後、子どもと接する上で参考になる話をたくさん聞くことができた。危うさの話の中でも保育園と幼稚園で違いについて触れられ、それを知ることができたのもよかった。

実際に園で働く先生方から、昔と比べてどう子どもたちが変わってきたかをエピソードを交えて聞いたことがとても意義があった。お子さんを育てながら働いてみえる先生方も多かったので、保育者としての思いと保護者としての思いの両方を聞いたのはとても貴重だった。親の気持ちは親にならないと分からないとよく言われるが、本当にそうだと思う。分かっているつもりでも、保護者から見ると「若い先生には分からない」などと思われてしまう。そのようなことも考慮しながら子どもの思いにも、保護者の気持ちにも寄り添っていこうと思えた参観だった。

引率者より

理論的な部分と、実際の子どもの様子と両方聞かせていただけたので、学生も大変勉強になったと思う。(採用試験直前の学生もいたので有り難かった。)

平成24年10月24日(水)名古屋大学生・大学院生(4人)

<参観した講義・協議会について>

(社会に参加)参加した先生方の問題意識には共通した部分が多く、「言語活動」(多くは話し合い活動)を実践しているが、活動に目的化してしまい、どのような課題を与えたらよいか分からない」というものだった。グループの話し合いを聞いていて、子どもが考えを生み出す「型」のようなものを与え、習慣化していくことは、有効であると思った。

(理科に参加)新任の教師たちが、グループで話し合うことにより、課題を解決していく方法はよかったと思う。教師になって半年で、日々迷いに迷って、授業をされている先生方は、同じ立場の方からの声をきくことが最良だと思った。指導の計画についての話し合い、グループ編成についての話し合いが常に教師の視点からの発言がほとんどだった。生徒はどうなのかという視点で見ることができるとよいと思った。

(国語に参加)先日、私自身が教育実習で行った単元について話し合いをしているグループに参加させていただいた。参考になったのは、心情曲線というものである。心情が分かる描写を書き出し、心情を読み取り、プラスの気持ちかマイナスの気持ちかを曲線で表すことで、視覚的にも分かりやすく楽しくできそうだったと思った。これから取り入れられたらいいと思った。

(国語に参加)先生方とお話をする、特に授業に関しての話し合いに参加させていただくのは初めてで、とても勉強になった。教師でもなく、ただの学生の自分を話し合いのグループの中に入れていただき、貴重な話し合いをさせていただき、とても感謝している。

<今後、教職を目指すに当たって、参観の意義>

(社会に参加)私は研究者として教育に携わることが将来の目標だが、現場の先生方が直面している課題を直接見聞きさせていただき、大変有り難い機会だった。また、ベテランの先生方が学習指導要領を読み解き政策レベルの教育に求められている課題を若手の先生方に伝える場を見せていただいたことも、大変興味深い経験となった。

(理科に参加)子どもの学びも、教師の学びも同じだと思う。消化不良を起こさないように、段階を追った指導が必要だと思う。34年前に新任教師だった私の頃とは、違った研修内容にうらやましさを感じた。

(国語に参加)同じ教科の先生が同じ単元について話し合うことは、とても有意義だった。お互いの悩みを共有することができ、一緒に解決策、工夫点を考えることができる。私も今日は自分が行った授業の様子を思い浮かべながら話し合いを聞かせていただいて新しい発見があった。他のグループの発表も、特に話し合いを授業の中に取り入れる際に注意すべきことについて考えることができ、今後生かすことができそうである。講師の話から、改めて教材研究の大切さ、授業づくりの重要さを感じ

じた。教育実習でもたくさん指導してもらったが、現場を経験されてきた先生の話は本当に私の心に響く。今回聞いたたくさんのことをどんどん生かしていくことができるようにしたいと思う。
(国語に参加)生徒が突拍子もない発言をした時、ただ流すのではなく、一度認めてあげるといふ点はとても大事であると感じた。

平成24年11月14日(水)愛知教育大学大学院生(21人)

< 参観した講義・協議会について >

初任者研修の内容について以前から興味があり、学生という立場でありながら参観できたことは、大変勉強になった。学校現場での様子を具体的に教わり、対応方法や実践について学べたことは、今後もっと勉強しなくてはという気持ちになった。これからも大学院での授業や小学校でのボランティア活動を積極的に行い、1つでも多くのことを吸収していきたいと思った。

「文化、習慣が違う」のではなく「人は一人一人違う」という教師の意識、姿勢が大切であることを学んだ。

帰国、外国人児童生徒教育への対応、キャリア教育(進路指導)の意義、どちらもとてもためになるお話ばかりで、とても勉強になった。特にキャリア教育に関しては、大学院の授業で理論的な部分の勉強は行ってきたが、具体的に小学校では、どのような実践を行っているのか自分の中で明確になっていない部分が多くあったので、現場の小学校の実践例は非常に参考になった。学生という身分でありながら、今回初任者研修を参観させてもらい、本当に勉強になった。

現場での経験を話してもらい、とても勉強になった。外国人の支援に対しても、大学や院の中では知れない、現場の生きた情報が聞くことができた。2つの話を通して、教師は一生学び続け、子どもたちに教えていく、責任ある仕事だと感じた。

「帰国・外国人児童生徒教育への対応」の講義では、「人間は一人一人違う」という言葉が心に残った。日本の中で毎日当たり前だと思っている生活は、外国へ行くと通用しない。もし自分が外国へ行って見知らぬ土地を歩き、その土地で生活していこうとすると、どういうことを知りたいのかなど、想像する力が必要だと感じた。相手の立場に立ち、どうしてあげれば快く生活できるか、気配りをする大切さを学んだ。

「キャリア教育の意義」では、講師のとてもおもしろい自己紹介から始まり、話にひきつけられた。企業の入社式訓示から学べることはたくさんあるということを知り、全てのことを教育につなげていきたいと思った。また、好きなこと、得意なことを教師自身が行い、個性を發揮させるということに共感した。私は、好きなことがたくさんあるので、教師になったら、好きなことを続け、その魅力を子どもたちに伝えたい。また、教育に対する想像力を深めていきたい。

初任者の方と同じ席で研修を受けることができ、学校現場ではどのような教師が、そしてどのような教育が求められているのかを知ることができた。講義中、先生のおっしゃった言葉の中で「教育は一人の子を粗そうにしたとき、その光を失う」という話が印象的だった。全ての子どもが自尊心をもち、将来を担うためのパワーを發揮できるような教育を行いたいと感じた。今回、このような研修に参加させていただき、学ぶ場所を設けてくださったことに感謝したい。

2つの講義を聞いて、どちらも、子どもへの指導の実態やその指導の効果が示されていたので、教室の子どもを指導している自分に置き換えて、イメージしながら聞くことができた。また、「効果がある」と実証されている実践から、「自分も取り入れてみたい」という意識が高まった。

外国人児童、生徒への対応について、「想像力」「気配り」という軸をもつことが大切だと学ぶことができた。1か月間の小学校への実習直後で、重なる部分が多く、実践と理論の両面から学ぶことができた。外国籍児童に対する特別支援だけでなく、日本の学校としてのあるべき姿を考えさせられる研修だった。

理論よりも、現職の先生方の実践が基となった講義を受けることができ、多くを学ぶことができた。

外国人児童の講義では、先日まで現場の実習に参加していたこともあり、関わる中で子どもを理解しきれなかった点、どのように接すべきか結論が出なかった点を考えながら聞くことができた。キャリア教育も普段から学校生活の中で行われている活動がキャリア教育になるという意識をもつだけでも実践になっていくと学べ、イメージができた。

< 今後、教職を目指すに当たって、参観の意義 >

外国人児童への指導を行う前に、教師自身が外国の文化や習慣の違いをよく理解し、対応に当たる必要があると強く感じた。また、キャリア教育のお話の中では、教師の存在そのものが子どものキャリア発達に影響を与えているということを知り、責任と情熱をもって子どもと関わっていききたいという思いがよりいっそう強くなった。

今回の参観を通して、自分がどのような教師になりたいのか、ならなければならないのかを再度考えた。今はまだ学生で学んでいる立場でも、あと1年半後には、私も初任者として子どもの前に立つのだと、あらためて責任を感じた。そして、もっともっと勉強しなければと思った。また、講義をしてくださった先生方のように学び続ける姿勢が大切であることを学んだ。たくさん失敗もしてしまうと思うが、子どものよりよい成長のために少しでも力になれるように、努めていきたいと思った。

初めて初任者研修というものを実際に目で見て、体験することができた。参観を通して、私と同じ同期の年代の初任の先生方がたくさん研修を受けておられ、私も一日でも早く同じ場に立ちたいという思いと、あと残された大学院での1年4か月余りをいっそう有意義なものにしていきたいと強く思った。普段は、同じ大学院で学ぶメンバーと顔を合わせる事がほとんどだが、このように同じ志を持った初任者（もうすでに教壇に立たれている訳だが）と同じ時間をともにすることによって、新鮮な感情を抱くことができた。

私は現在サポーターとしてある小学校で活動させていただいているので、今回の参観で学んだことを生かしていきたいと思った。「思いだけでは伝わらない」というお話があったように、いかに思いを実践に変えていくことができるかが大切だと思った。今回の参観のように、教育の現場で多くのことを経験されて、しっかりとした教育観をもった方のお話を聞くことは、今の私にとってとても貴重な学びとなる。サポーターという形だが、現在活動させていただいている小学校の子どもと向き合って経験を積むとともに、現場の教職員の方から多くのお話を聞くことが大切だと、今回の参観から感じた。

外国人児童生徒教育への対応、キャリア教育の意義は双方ともにこれからの学校現場では大切なことで、教師に求められる指導力、資質の1つだと思う。大学院での学びと関連させて、知識を深めることができた。また、初任者の先生方の講義に対する熱心な姿勢から、私も負けてはいられないと感じ、教壇に立つまでに、大学院で更に学んでいき、教師になりたいと強く思った。

「 を語れて を語れる教員になってほしい」という話の中で、の中には授業や夢、子どもなど、いろいろなものが入り、正解は自分の中にあると教えてくださった。教師とは？教育とは？学校とは？と、改めて考えるきっかけになった。

本日の2つの講義を通して、今の教育の中で求められていることを学ぶことができたとともに、今のうちからこれらのことをしっかりと学び、教員となった際にしっかりと身に付けなければいけないということを実感した。初任者の先生方の生き生きとした顔を見て、私も早く教員になりたいという気持ちが強くなった。

改めて、さまざまな教育課題がある現場で、常に向上心をもって研究と修養に努めなければいけないと学ぶことができた。新しいこと、変わらないこと、という不易と流行を意識して、自分自身が子どもたちに何を教えることができるか考え、行動、実践していく必要がある。教師や自分自身が意図しない成長もある。また、現職の初任者とともに学ぶことで、日々成長されている厳しい世界を知ることができ、「負けてはいられない」という気持ちになった。理論だけでなく、現場に出たい

という思いが非常に強く感じられた。

本日参観し、教育の現場では、常に子どもと接し、教育や子どもへの思いがいかに重要であるかということを肌で感じた。頭では分かっているが、実際に現場に出られている方からの言葉はひしひしと伝わってきて、現場の声を聞けたということは、私にとってとても学びのある時間だった。また、普段の私たちでは分かりづらい実践の指導が多く、初任者の方がどこで壁に当たり、課題だと感じているのかという視点を多く学ぶことができた。

今、教育現場で求められている知識を学ぶことができ、残りの院生活でもっと学びを深めて現場に出なければならないという思いがわいた。そのために今通わせていただいている学校でも、もっと授業実践をつませてもらおうという意欲が高まった。また、同じ年齢で現場で働いている初任者の方々を見て、同じ話を聞いても自身より多くを学んでいる様子を感じ、近い将来絶対教壇に立つぞという思いも強くなった。

どのような観点が必要なのか、どのような視点をもって教師になっていけばよいのかを理解することができた。大学の講義だけでなく、初任研に参加させてもらうことで、より実践的な教員を育成していけるのだらうと思った。本日の参観から具体的な実践例、そして初任者としてあるべき姿勢について学ぶことができた。教員になったら、勉強が終わりなわけではない。教員になってからの方が、本当の勉強なのだ。常に学び続ける姿勢をもち、子どものために自分を磨いていきたい。

今後の課題

4月当初に参観可能な研修講座をアップし、4月16日(月)に申し込みを開始した。5月10日(木)申込をいったん締め切り、6月中旬から、申し込みを再開という年度当初のスケジュールであった。今年度大きな問題はなかった。

大学のカリキュラム改正により、平成25年度後期から教育実践演習が授業として位置付けられる。このニーズがどの程度あるかによって、年度当初の状況は今年度と違って申し込みが多くなる可能性もある。